

陳情第 1 1 6 号	受理年月日	令和 4 年 9 月 1 2 日
付託委員会	保 健 福 祉 委 員 会	
件 名	化学物質過敏症の実態調査、さらなる香害啓発及び専用相談窓口の設置について	
要 旨	<p>近年、日用品に含まれる有害物質で汚染された空気により、中毒症状を引き起こす病、化学物質過敏症の患者が増加している。2012年近畿大学医学部東准教授の調査によると、国内患者数約100万人。コロナ感染対策の過剰な消毒の影響もあり、その生活は困難を極めている。本市でも、一定数の患者が見込まれる。</p> <p>環境中の微量な化学物質を経気道、経口、経皮吸収することにより、頭痛、目まい、吐き気はもとより、呼吸器、循環器、皮膚、消化器官、自律神経、中枢神経等幅広い臓器にわたる障害で苦しみ、社会生活はおろか、一般的な建材を使用した家に住めず、日常生活にさえ支障を来している。確定診断できる医師も、国内に数名である。学校に通えない児童、生徒、離職せざるを得ず経済的に困窮する人が続出している。これは、学習権、生存権にも関わる重大な問題である。</p> <p>この実態を把握し、将来的なシェルター設置も視野に入れつつ、下記のとおり、至急、具体的な対策を求める。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 本市における、早急な実態調査 2 さらなる香害啓発及び専用相談窓口の設置 3 医療費及び住居費助成金支援制度の創設 	